

サルメンエビネ(ラン科)

Calanthe tricarinata Lindl.

兵庫県：Aランク

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

種の概要

ブナ帯の落葉樹林下にはえる。偽球茎は球状。葉は3-4個、倒卵状狭長楕円形、無毛、急鋭尖頭、長さ15-25cm、幅6-8cm。花茎は高さ30-50cm、花序、子房ともに短毛がある。花は4-5月、7-15花を総状にまばらにつける。苞は細長い3角形、長さ5-8mm、鋭尖頭。萼片は狭長楕円形、長さ20-25mm、幅7-15mm、鋭頭。側花弁は広倒披針形、萼片よりすこし小さく、鋭頭。萼片、側花弁ともに黄緑色。唇弁は紫褐色～朱紅褐色の色調を帯び、萼片と同長で、3裂する。側裂片は小さく、中裂片は大きくて、ほぼ4角形、先端の縁にひだがあり、中央に3条のとさか状突起がある。

(画像無し)

国内分布

北海道、本州、四国、九州

県内分布

西播

選定理由

| 人為性 | | 特殊性 | | 学術性 | | |
|--------|--------|--------|-------|-------|-------|----|
| 生育環境破壊 | 観賞用等採取 | 特殊生育環境 | 特異な生態 | 特殊な分布 | 分布の限界 | 希少 |
| ○ | ○ | | | | | ○ |



特記事項

県内で播磨西部に広く知られていたが、開発と観賞用等採取のため、見られなくなった。

保護上の留意点

自生地である樹林環境を保全するとともに盗掘防止対策が必要。